

# 令和7年度 第2回磐田市行政経営審議会 議事録

【日 時】 令和8年3月17日（火） 18時30分から20時00分まで

【出席者】 委員 14名

秋元富敏 委員、井上佳子 委員、大澤房男 委員、大杉幸弘 委員、小村隆史 委員、砂川利広 委員、高橋良和 委員、高柳裕久 委員、松本典子 委員、守谷充子 委員、茂木眞佐代 委員、藤森新五 委員、堀川知廣 委員、矢田央生 委員

事務局5名

企画部長、都市計画課長、政策推進課長、政策推進課長補佐、政策推進課担当

- 1 開会
- 2 定足数の報告（委員総数 15名中 14名の出席により会議成立）
- 3 会長挨拶
- 4 議事
  - （1）磐田市の現状と将来人口推計に基づく課題について
  - （2）第3次磐田市総合計画基本構想（素案）について
- 5 連絡事項
  - ・今後の進め方について
  - ・地方創生関連交付金の効果検証【令和6年度・追加分】の報告について
- 6 閉会

【議事①】 磐田市の現状と将来人口推計に基づく課題について

委員	<p>人口の将来推計について、社人研(国立社会保障・人口問題研究所)に準拠しているとあるが、低位や中位や高位といった、どの推計条件に基づいているか？</p> <p>人口や出生数については、社人研の予想よりも速いスピードで減少が進んでいるため、絵に描いた餅とならないように、まずは推計条件を確認したい。</p>
事務局	<p>今回の資料については、中位推計に基づき推計を行っている。社人研の推計条件においては、中位推計においても合計特殊出生率をかなり高い値で見積もっているため、令和8年度に入ってから新しく策定する人口ビジョンの数値を用いて計画に反映していきたいと考えている。</p>
委員	<p>磐田市の人口推移をみると、ピーク時から約12,000人の減少となっている。</p> <p>この減少のスピードについては、想定以上なのか、それとも想定内なのか、どのような感覚を持っているか。</p>
事務局	<p>第2次磐田市総合計画後期基本計画が令和4年度からスタートしたが、その際に策定した人口ビジョンで、令和8年度末に165,700人以上を目指すとしていた。しかしながら、令和6年度末時点で既に165,000人を下回っており、想定よりも早いスピードで人口減少が進んでいると認識している。</p>
委員	<p>年齢階級別人口移動において、25～29歳⇒30～34歳のところは、男女の傾向が異なるとあるが、どういった分析をしているか。また、出生数の回復の兆しが見えているということであったが、この要因をどのように分析しているのか。</p>
事務局	<p>男女で傾向が異なるといった点については、男性は転出超過、女性は転入超過の傾向にある。おそらく女性は子育てや結婚といったタイミングで、進学や就職で市外に転出した人の一部が子育てしやすい磐田市に戻ってきている傾向があるのではと分析している。</p> <p>出生数については、明確な理由まで分析できていないが、新しく宅地造成を行っており、若者世帯が転入してきている点が理由の一つとして考えられる。またコロナの影響により、結婚や結婚式の延期により、出産のタイミングが遅れていた分が、令和5年と令和6年の出生数の急激な減少に影響していたのでは考えているが、その遅れていた出産のタイミングが今年度に遅れてやってきたのもあるのではないかと考えている。</p>

委員	<p>20～34 歳までの独身の男女比において、静岡県は 47 都道府県の中で7つしかない 3 割以上男余りという県に入っているという記事があった。だから磐田もおそらくそうなんだろうと思っていたが、今回の資料を見ると 20 代後半に関しては、女性の転入が多い傾向とあった。出生のポテンシャルを図るための材料として、20～34 歳までの独身の男女比において、他の市町と比較したデータが何かあれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>独身の男女比のデータは持ち合わせていないが、単純に男女の人口比で見ると、20～30 代は、やはり男性の方が多くなっている。製造業のまちというイメージから、女性が働く場をイメージしにくいところがあるのではないかという声も聞かれることがある。</p> <p>出生のポテンシャルという観点でいうと、合計特殊出生率があるが、令和4年度は 1.38 となっており、全国の 1.26 よりは高くなっている。併せて初婚年齢のデータについては、令和 3 年のデータがあるが、大体全国と同じで 31 歳前後となっている。</p>
委員	<p>合併から 20 年経つが、旧5市町村からの合併のため、磐田市と一括りと言っても、地域特性は非常にあると感じている。今回の資料は、磐田市全体の傾向を捉えていると思うが、例えば福田や竜洋地区と中泉や見付地区とでは傾向は異なってくると思われる。地域ごとに効果的な施策を打っていくには、地域ごとの傾向の把握が重要だと考えるが、地域ごとの傾向の把握はできているのか。</p>
事務局	<p>人口の推移については、町別人口を公表しており、もうすでに各部局で必要に応じて活用している。</p> <p>例えば高齢者対策においては、市内全体では高齢化率は 30%くらいであるが、30～40 年前に宅地造成された地区においては、高齢化率が 50%近いようなところもあるなど、既に課題として顕在化してきていることもあるので、各担当課において対応している状況である。</p>
委員	<p>将来人口推計については、私も低位推計でやらないといけないし、低位推計でやったとしても、もっとひどくなるのではないかと考えている。そのことを前提に、1 点確認してからコメントさせてもらいたい。</p> <p>確認したいのは、将来想定される課題のところでも 2050 年問題には南海トラフ地震への備えという言葉があり、2040 年問題には防災についての記述がないが、何年ぐらいに南海トラフ地震の発生ということ念頭において考えているのか。</p>

事務局	<p>今回の人口の資料については、今日の議論を深めてもらうための資料として出しており、これをそのまま次の総合計画に使っていくものではなく、2040年問題に防災の記載がないのは、一般的に言われている代表的な課題を記載したためであり、誤解を与えてしまい申し訳ないが、2050年まで災害が起こらないと考えているわけではない。</p> <p>私たちは、こういった災害については、いつ起こるかわからないという前提で考えており、常日頃からいつ起こるかわからない災害に対して対策を進めていくという視点で、今後の計画の中に反映させていくつもりだが、今後、分野ごとの分科会を行う中で、また詳細なご意見等を賜ればと考えている。</p>
委員	<p>いつ起こるかわからないという発想自体が、この南海トラフ地震にとっては間違いであるというのが防災人の中ではかなり一致した考えである。一例として、静岡県立大学の学長であった尾池和夫先生は、「2038年南海トラフの巨大地震」という著書の中で2038年とはっきり述べているし、阪神淡路大震災は1995年1月17日に起きているが、大体次の南海トラフ地震が起こる50年ぐらい前から西日本では地震の活動期に入ると言われている。そのことを考えると1995年から+50年で、2045年という数値もでてくる。またひとつ前の南海トラフ地震は1944年と46年に起きているが、その地震は比較的規模が小さかったので、次のクールが早まると考えると、2035年くらいも考えられる。そのため、いつ起こるかわからないではなくて、21世紀の前半のうちには必ず起こるであろうかつそれも場合によっては2030年代の半ば以降に起こるのではないかというところが、基本的な認識になっているため、そういった認識で考えてもらいたい。また、災害が起こった際の、復旧復興に携わる労働力も絶望的に足りなくなるという点も考えていかなければならない重要なことだと考えている。</p>
事務局	<p>バックキャストिंगに基づいて政策を考えていくにあたり、基本政策の中でも目指す姿を掲げた上で必要となる施策を考えていくというスタンスで考えている。今度の計画についてはバックキャストिंगと同じ3本柱の一つとして「共創」も掲げており、防災については当然私達行政でもやらなければならないところもあるが、市民や事業者の皆さんにも自分ごととして受け止めていただくという視点も必要だと考えている。その点も踏まえて、こういった内容であれば、市民に伝わるのかという点も、今後の分科会で意見をいただきたいと考えている。</p>

【議事②】 第3次磐田市総合計画基本構想(素案)について

委員	<p>○人口を増やすということも一つの重要なテーマだが、人口減少下でもこの地域が持続可能で、魅力的なまちであり続けるということを前提とした施策を中心に考えていく必要があると思う。</p> <p>○産業分野で考えると、この地域はもう労働者の面では外国人なしでは回っていかないため、より外国人の方々と共生できるような仕組みや施策を考える必要があるし、人口減少下でも中小企業が稼げる仕掛けを作っていくというのを前面に出す必要がある。</p> <p>○大企業と中小企業とスタートアップ、そして大学といったまさに共創の中で新たな産業は生まれてくる。0 から1を生む起業家だけだったら、なかなかまちの付加価値は上がらないが、1を生む起業家と大企業と大学、そして既存の中小企業の技術が相まって、1を10に、10を100にすることで、地域としての稼ぐ力が上がってくると思う。そういったところを商工会議所もそうだが、行政としてもどういう仕掛けをしていくかということを考えていきたいと思う。</p>
委員	<p>○人口減少についてかなりネガティブに捉えているが、そこまでネガティブに考えるのではなくてポジティブにというのは難しいかもしれないが、ちょっと考え方を変えていく必要があると感じている。</p> <p>○構想の中でウェルビーイングやバックキャストなどが出てきているが、これを考えていく上で、25年後に生産年齢人口である人が、この委員の中に何人いるのだろうかということを見ると、自分ごととして考えられる39歳以下の方の意見も聞けるようにしておく必要がある。</p> <p>○私は東京で働きながら磐田で暮らしているが、東京に移るかもしれない要因を考えてみると、子どもの教育があげられる。子どもの教育でいうと、今の時代オンラインでどこにいても学べる環境が整ってきていると思うが、ものづくりのまちである磐田の魅力を生かし、磐田でないとできない教育に力を入れていく必要があると感じている。そういった点を踏まえ、どのように反映していくのかを今後の分科会で考えていけると良いと思う。</p>
委員	<p>○磐田は外国人比率が6.2%と、人口が減る中でも、外国人は増えていくことが予想されている。外国人が住んでくれているということをポジティブに捉え、労働力の面でも、災害時の人手の面でも、そのポテンシャルを最大限生かしたまちづくりをしていけるといいと思うし、政策について話したりするときにも、外国人のことが自然に話題となり、それがみんなの中で話されるといいなと常々思っている。</p> <p>○磐田市は、もうだいぶ前から地域や企業や行政など様々な方がすごく頑張っており、制度も含め様々な面で整ってきていると感じているが、これからさらに優しいまちになってほしい。</p>

委員	<p>○「社会の潮流の変化」で、様々な側面から捉えており、不安要素が多い社会になってきている中、ウェルビーイングや幸せバイタルといったものを市民の方々と共有する機会っていうのがとても大事。</p> <p>○地域福祉(地域に根ざした支え合い)を進めていくにあたっては、やはり市民の方の理解がなければ一步も進まないところがあるため、その点が大切な柱になっていくと思う。</p>
委員	<p>○若者の意見は非常に大事になってくると思うので、その点はしっかりお願いしたい。</p> <p>○DX の件でいえば、これから高齢化が進んでいく中、どうやって高齢者とか外国の方にも使ってもらおうかというのは考えていかないといけない。</p> <p>○教育にしても打ち合わせにしてもリモートで全部できてしまう時代になったが、「磐田じゃないと」とか、「磐田に来ないと」とか、「磐田にいないとできないこと」という視点を取り入れた計画になればいいと思っている。</p>
委員	<p>○市民一人一人のウェルビーイングの視点を取り入れるというのは相当ハードルが高いと感じるが、行政としては一人も取りこぼさないという考えは大事だと感じる。</p> <p>○ありがたい姿を作るときに一番重要なのは、それを見てワクワクするかどうか。目指す姿の設定では、そういう視点で市民の方々がそれを見たときにどう感じるか、何か期待感やワクワク感があるかといった視点を取り入れながらやっていくと良い。</p> <p>○市のブランディングや発信力という観点からも、何かやってくれそうな感覚や、遊び心があるブランディングや戦略をやっていたきたいと感じている。</p>
委員	<p>○基本構想の構成については、総合的に考えられており、問題ないと思うし、このような形がいいと思う。</p> <p>○計画の中には、さすがやっぱり磐田だなとか、特にこういうところに魅力があるなと感じてもらえるような作りにすることが、とても大事だと思っている。</p> <p>○バックキャストによる目指す姿の想定については良いことだと思うが、2050 年を想像していくのは、なかなか難しい。そういう意味では若者の方が柔軟な発想で考えられるので、若者の意見は取り入れるべき。ただ、もう少し近い将来にとどめておいてもよいのではというのは少し感じている。</p> <p>○ウェルビーイングという言葉については、市民意識調査で 7 割ぐらいの方があまり理解していないという結果だったと思うので、この言葉を使っていくにあたっては、市民に対しての周知についてもっと考えてもらいたい。</p>

委員	<p>○基本構想については、現在このような背景で考えており、今後こんなまちを目指していくという形になっており、わかりやすく読みやすいと感じたので、市民の方が見ても理解しやすい構成だと評価できる。</p> <p>○若者の意見というところでは、将来像の策定において若者の意見を取り入れていることが読み取れるため、ここからも若者たちの考えている想いを読み取り、今後の計画策定の中に生かしていく必要がある。</p> <p>○市民の方が計画を読んだときに、自分事としてイメージしやすい計画になるようにしていければと考えている。</p> <p>○計画策定にあたっては、外国の方との共生というのは念頭に置いて考える必要があるし、子どもをどう環境だったら育てたいかという点も重視すべきである。磐田ならでは、磐田で育てたいと思えるようなところであるとか、外国人児童も安心して教育を受けられ、ここで暮らしていけるようになるよう、他市町での困りごととかも確認しながら計画に反映していただきたいと感じている。</p>
委員	<p>○計画にはキャッチコピー的なものが必要だと思うが、基本理念に掲げている「安心できるまち！共に創ろう魅力ある磐田」は、非常にわかりやすく良いと感じた。</p> <p>○最近ウェルビーイングという言葉をよく聞くが、正直言葉だけが先行しているイメージがある。先日、磐田市が静岡産業大学と共催したウェルビーイングシンポジウムに参加したが、参加してみるとウェルビーイングの重要性について非常に理解できた。今後もそのような市民の方が理解できる仕組みや取組を行ってほしい。</p> <p>○働き手が不足してきているため、外国人の活用は重要。また、高卒での採用に苦労している企業も非常に多いので、いかにこういった人たちを磐田市の企業に留め置くことができるかという点も非常に重要な視点。</p> <p>○磐田市は良い意味で中途半端な街。浜松市や静岡市みたいに大きすぎず、かといって小さすぎず、様々なポテンシャルがあるため、実証実験とかにトライしやすいまちであるため、そういったPRも非常に重要。</p>
委員	<p>○ウェルビーイングでいうと、災害時のウェルビーイングについて考えるのはとても重要。</p> <p>○将来の人口規模を2割減で考えた時に、2割減で回っていく社会へとどのように変えていくのかというのが、これからこの計画の中で求められる大きなテーマになっていくと思っている。その中で安心できる環境をどのように作り込んでいくのか、そのようなことを考えていくことが、ウェルビーイングにつながっていくと考えている。</p>

委員	<p>○基本構想には、農業に関する話があんまり出てこないが、磐田には磐田農業高校、農林環境専門職大学、中遠農林事務所があり、農業に対してのポテンシャルは高い。</p> <p>○国の根幹を担っている食について、外国に依存しているところが多く、基盤が弱い。食は、健康や医療にも直結するものであるため、日本の食を守っていくための政策を、もう少し入れてもらいたい。</p>
委員	<p>○ウェルビーイングと共創については、他市町の総合計画でも、キーワードとして取り入れられてきている。</p> <p>○人口減少については、活力が減るという意味では抑制策も必要だが、人口減少に適応していく適応策も必要であるため、抑制策と適応策の両輪でやっていく必要がある。</p> <p>○ウェルビーイングを重視するのはいいが、主観指標はバイアスがかかりやすく、その時の社会経済情勢で動くものであるため、客観指標と適切に組み合わせる必要がある。</p> <p>○EBPM(エビデンスベースドポリシーメイキング)ということで、因果関係までは無理だと思うが、政策と結果の相関関係とか、できる限り分析した上で進めてもらいたい。</p> <p>○共創は掲げるだけではなく、実際どうやって市民の方たちを巻き込むかというのが重要になる。</p>
委員	<p>○自治会は現在 300 の自治会があるが、困っているのは人口減少、高齢化により役員の担い手がいなくなっている点。</p> <p>○地域づくり協議会では、地域のことを地域でやるということで、今若い方々も入れて、活発に動いている。外国人の方々でも何人が役員やっている方がいる。そして日本語はたどたどしいが、とにかく地域のイベントには必ず顔を出すという外国人の方もいる。その親たちの子どもは、日本人の子どもたちと一緒に遊んだりしている。早くそういった社会が当たり前になればいいと感じている。</p> <p>○今後人口減少で、様々な問題が考えられると思うが、様々な方からの意見を聞いているので、そういった点を計画に反映できれと思っている。</p>

事務局	<p>○本日いただいた多くの意見は、基本計画の各政策の中で検討していきたいと考えているため、今後開催していく分科会の中で、また様々のご意見をいただければありがたいと考えている。</p> <p>○若者の意見の反映に関しては、今年度、若者会議を行い、様々のご意見をいただいた。またオンラインを使った意見聴取のシステムがあるため、そういったものも組み合わせながら、若者から広く意見をもらえるようにやっていきたいと思っている。</p> <p>○ウェルビーイングについては、初めての取組ということで私達もこれをいかに市民に伝え、共有していくのかという点が大きなテーマであると感じている。ウェルビーイングについては、毎年市民にアンケート調査を実施し、経年変化を見ていく予定だが、数値が上がった・下がったということばかりを見るのではなく、基本政策ごとに関連性が高い幸せバイタルを示していく中で、政策が自分たちの幸せにどう関連するのかっていうところで、市民の皆さんと将来を語る上での一つのツールになっていくというような使い方をイメージしているところであるため、来年度もシンポジウムを開催しながら、ウェルビーイングの周知に努めていきたいと考えている。</p> <p>○人口減少については、本当に大きな問題で都市部以外はこの自治体も大きなテーマとしてやっている。そのような中、国の地方創生の取組の一つとして、地方への移住定住をずっとやってきていたが、それだとハードルが高いということで、その一歩手前の関係人口・交流人口を増やしていきましょうという動きが今出てきている。この関係人口についての施策については、行政の分野に関わらず、地域活動も含めながら、どういう活用ができるのかといったことも考えていきたいと思っている。</p>
-----	--